

## 「つながり」に支えられた一年間

校長 田屋多恵子

### 春風や 闘志いだきて 丘にたつ

三寒四温の日を繰り返しながら、気が付くと、太陽の光はあたたかい春の日差しです。

俳句の意味は、「丘の上で春の暖かな風を全身で感じながら、これからまた勇ましく闘おうと決心しています。」という意味です。この一年間コロナ禍の中でも保護者の方々から多くのご理解やご協力を得ることができ、羽沢小学校の教育活動が制約の中でも最大限子ども達の教育活動がよりよいものとなるように、全教職員が一丸となって努力してまいりました。またそのような状況下にある学校に対して地域や保護者の皆様のご理解とご協力をたくさんいただきましたおかげでこの一年間を過ごすことができたとありがたく思っております。

創立50周年の記念すべき一年でしたが、期せずして、緊急事態宣言下から始まった一年間でした。分散登校から始まり、PTA活動の自粛、分散授業参観の実施、運動会の分散のリモート開催、宿泊学習の日帰り実施など様々な試みを行い、日々の教育活動に取り組んでまいりました。この一年間で実感したことは、学校は学校だけで運営できるものではなく、地域のお力を借り、また保護者にご理解いただき共に育てていくべきものであるということでした。新学期の始まりは、入学式と始業式の2日間だけでした。子どもの学習保障に悩み困った時に、50周年記念実行委員会から家庭学習のドリルを購入していただきました。またPTAからは、自宅でも一人で簡単にできる運動のために「なわとび」を全児童に購入していただきました。いつもご理解いただき、ご協力いただき支えていただいたと感謝しております。

通常ではないときに、改めて、またはじめて気づくこともあり、「地域の中の学校」「地域と保護者とともに創る学校」でなくてはならないと感じました。地域や保護者の皆様との「つながり」を大切にこれからも「つながり」を広めていくような学校であり続けたいと思います。

★令和3年度からは、菅田中学校ブロックは菅田中学校・菅田の丘小学校・羽沢小学校の一中二小のブロックとなります。新しいスタートに向け想いを共有し、力をあわせていきたいと考えています。

★2月号でもお知らせいたしましたが、羽沢小学校は「持続可能な学校の在り方を探る公募型モデル事業」実践校となりました。日課表の工夫も2月から試行しておりますが、次年度からの日課表を入れさせていただきました。このことは2月26日（金）に羽沢小で行われました一中三小の「みどりの大地運営協議会」でもご報告させていただきました。

## お礼

保護者の皆様そして地域の皆様初めPTA会長をはじめとする役員の皆様、一年間ありがとうございました。様々な場面で応援し支えていただきましたこと心よりお礼申しあげます。さらに創立50周年記念実行委員の皆様、一年半に渡る会議や準備にお力をいただきありがとうございました。コロナ禍の中でも心に残る50周年記念式典が挙行できましたのも一重に実行委員長をはじめとする実行委員の皆様のお力があつたからこそと感謝申し上げます。ありがとうございました。